



第27号

2019年春号

# 丹波市農業委員会だより



【第4回たんばルシェ 2018 いちご摘み取り体験（あぐり丹波3Dいちご農園にて）】

- ◆先進地視察研修報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～3 P
- ◆地域からのたより・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～5 P
- ◆認定農業者との懇談会を開催・・・・・・・・・・・・ 6 P
- ◆丹波市議会民生産建常任委員会との懇談会を開催・・・・・・・・ 6 P
- ◆農地の利用権設定・丹波市賃借料情報・・・・・・・・ 7 P
- ◆農地相談日のお知らせ・農業者年金加入・全国農業新聞購読促進・・・ 8 P

一日目（二月二十九日）

## 鈴鹿市農業委員会 視察研修報告

農業委員 近藤 眞治

新農業委員会制度が二年目を迎え、農業委員と農地利用最適化推進委員活動について特徴のある鈴鹿市農業委員会を視察いたしました。

### 《鈴鹿市の概略》

鈴鹿市は人口二十万人、東に伊勢湾、西は鈴鹿山脈で、この一月はまだ



多くの雪がかぶっており、自然環境に恵まれたまちで、高速道路も整備され内陸工業都市としても発展しております。東名阪自動車道鈴鹿ICの西側はゴルフ場が数多くあり、市の中ほどの山間部には鈴鹿サーキット場が有名で私たちの知るころです。

農業においては市の中ほどに貫流する鈴鹿川の東南部では平坦で肥沃な水田と水で稲作と麦作が、西部地域ではサツキ等花木が盛んです。さらに、茶栽培も多く伊勢ブランドとして有名で、「かぶせ茶」は上質なお茶として人気があります。

### 《組織の体制》

農業委員会組織の体制は農業委員が十九名、農地利用最適化推進委員が二十五名で構成されています。

市内二十三地区の行政区域からなり、特徴的なのは各各地区に地区委員がおかれていることです。選出方法は各地区にまかせて全員で二百六名になるそうです。地区委員は農業をしている方の中から集落より選出されます。その中には農地利用最適化推進委員も含まれ地区会長として

所属し、地区委員と共同して現場で活躍するという形をとっており、地域で何かを協議する際には改めて人集めをしなくても自動的に協議をする場があるということです。

地区委員会は農地法許可審議だけでなく、遊休農地調査、農地集積や農地調整等地域の農業全般に関わっています。地区委員会は市の業務委託ということになり、各地域の実情は地元の地区委員が日頃から把握が出来ており、委員会活動がよりスムーズになるということです。

複数の地区を一ブロックにして農業委員もブロック別に担当し地区委員会に出席します。

農地法許可申請等は毎月二十一日に締め切られ、提出されたものを各地区において地区委員が現地確認や内容審議を行います。その結果を意見書として事務局へ提出し、翌月十四日の総会でさらに審議されます。

この地区委員制度は、昭和三十五年に地区委員会設置要綱をつくりスタートしたもので、平成二十九年七月の新制度発足時にも体制は引き継がれ、地区委員会連絡協議会を立ち上げられました。農地利用最適化推進委員は地区委員制度と組み合わせ、活動体制が出来上がっていました。

### 《遊休農地解消について》

鈴鹿市が公表している耕地面積は五千八百八十鈴、丹波市より少し多い程度です。ところが遊休農地が

百三十六鈴であり、丹波市が七・五鈴なのにに対し調査方法や捉え方で面積誤差が出ますが、非常に多いようです。一つの地区で耕作放棄地が占める割合が二十四・五%になるところもあるようです。調査は地区委員会が毎年七月～八月に実施され、図面を基に現地確認と所有者に対し解消の働きかけが行われています。

### 《獣害対策について》

鈴鹿山脈山麓の山間部、津市に近い南部で農作物被害が増加しているようです。国の総合対策交付金や市単独事業で猟友会への捕獲・駆除の業務委託、侵入防護柵設置等の補助で支援を行われています。鈴鹿支部猟友会員は三班約四十人で活動されており、猟友会員の高齢化、将来の担い手不足が今後の課題とのことです。新規の狩猟免許取得を目指す人に、初心者講習受講料の半額補助を行い、毎年五名程度取得者がいるようです。被害はイノシシ、サル、シカ、アライグマの順に多いとされ、サルについては手の打ちようがなく、ミカンやカキ等の餌を無くし追い払うしかないとのことです。

農業の課題はこの地域も同様のようですが、非農家や高齢化が進むとき、個人の力では対応出来ないのので、集落においてみんなで取り組む知恵を出し合っていきたいと思っています。



## 二日目（二月二十日） サンファーム法養寺

### 視察研修報告

農業委員 足立 篤夫

農事組合法人「サンファーム法養寺」は、近江平野の東端で彦根市の南、

名神高速道路湖東三山ICを降りると間もなくの地域、滋賀県犬上郡甲良町法養寺にあります。集落は二十六戸が住まわれる平地で、農地もこの一帯に二十三軒があります。

法養寺では、紆余曲折の中、集落営農の真の目標を三点に絞って話し合いをされた結果、平成四年に二十二戸の賛同により営農組合が立ち上がりました。

目標とされた改善の狙いは

一、機械貧乏を防止する（個人で農機具を買わなくてもよい・維持管理もしなくてもよい仕組みを作る）。

二、個人で機械を買わない代わりに集落で大型機械を共同利用する（当面は大型トラクター・コンバインの共同購入、オペレーターによる機械の稼働体制を作る）。

三、法養寺の田は法養寺で守る（高齢化や病気怪我などで農業ができなくなっても集落で

対応する）。

の三点です。法養寺での取り組みで特徴的と感じたことは、個人の農業機械の新規購入はしない申し合わせがされ、作業料金はオペレーターの賃金、直接経費、更新積立金と料金表に明記されたところです。組合立ち上げ当初の必要資金は一千三百十七万円、八十％は農業改良資金の借入れをされ、残りは参加者個人割と面積割とし、八年間の拠出金で返済されています。九年目（平成十二年）以降は作業料金に含まれる更新積立金で機械の更新が行われたようです。

集落営農組織の法人化は平成十七年五月に行われ、圃場の全面委託や、税務処理、補助金の受け皿など発展的に全員参加のもと移行されました。

サンファーム法養寺は規模が比較的小さい集落営農で、町内にある他の営農組合と協力して生産物をスーパー等に販売されています。共同販売のスタートはトマトの販売からで、その後、トマトに次いで米の販売もと何度もスーパーに足を運ばれたようです。担当者も生産現場に確認に

来られ施設等も確認の後、試しにということで平成二十三年の秋に一千俵とかなりの量の予約を受け、納入のために町内の営農組合に呼びかけ、七組合の参加で対応されたようです。結果、スーパーでは短期間で売り切れ、消費者の「おいしい」との反応にスーパーから「通年店頭販売をしたい」と次年度からは二倍以上の出荷要請を受けられたということです。

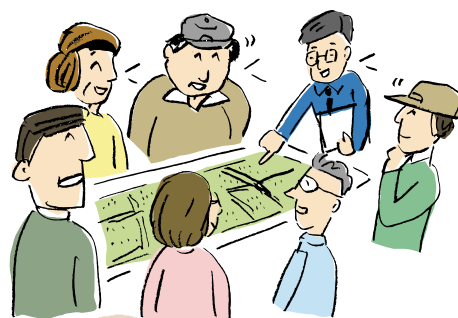
こうして確保された販路を他産地に負けないため、十坪あたりバイオ炭〇・五立米を、家畜糞堆肥三立米と共に各圃場に散布し、減農薬栽培も加え栽培指針として食味を確保しながら、消費者に支持される努力の中心でスーパーとの取引を継続されています。こうした取引を継続していくためには、法人格を取得して業界でも通用する団体になるようにという話もあり、滋賀県中小企業団体中央会に指導を受け「甲良集落営農連合共同組合」を立ち上げ、販売米の運送や大型のマニユアスプレッダによる堆肥散布等、事業を拡大しながら運営されています。

この度、視察に対応いただいたサンファーム法養寺の上田栄一理事は、どうした条件下でも営農組合は立ち上げられる。そのとき大切なことは、地域の若い人に話をして参加を呼び掛ける。組織の運営や物事の決定は必要最少人員で行えばスムーズである。

る。地域に後継者がいなければ、他地域からでも参加できる仕組みを持つ。集落営農の究極の目的は「明るく住みやすいむらづくり」であるとされ、法養寺での実践からお話をいただきました。



# 地域からの たより



## 農業を楽しむために

春日町下三井庄

たんばJUNちゃん農園

岡田 龍雄

四十年間サラリーマン生活を続けましたので、親が農業をしているのは他人事でした。ところが十一年前に父親が亡くなり急に沢山の農地の管理の重荷が掛かりました。最初は草刈りと圃場は鋤くだけで、耕作せず管理をしていましたが理不尽さを感じていました。

都会に勤務していた時に、農産品の丹波ブランドの知名度が高いことに気づきました。黒豆、大納言小豆、丹波栗といった代表的な農産品を改めて認識することになりました。

そこで、退職後全く経験がありませんでしたが黒豆栽培に取り組み、黒豆狩りなどの

農業体験を実施し、都会からも多くの人が来てくれるようになりました。そして【やる気の出る・楽しみのある】農業として農産品を加工して付加価値を高める六次産業化を検討しました。

平成二十九年に菓子製造業の免許を取得し、兵庫県認証食品の玄米と黒豆を使ったお菓子、大人のPongashiを開発・販売しています。耕作ができない人の圃場も借り上げ耕作面積も増やしました。今



後は丹波の特産品を使った色々なお菓子を更に開発し、農業の楽しさと丹波ブランドを発信し都会の人との連携も深めたいと思っています。

## 料理人から農家へ

青垣町大名草 くまゆき農園

足立 浩一

私は二〇一五年十月に神戸市から父親の実家の丹波市青垣町の大名城に移住してきました。俗に言う孫ターンというやつです。今までずっと飲食業に携わっていましたが、あることをきっかけに農業をしたい！と思い立ち、知識も何もない状態で飛び込みました。最初の一年は丹波市内の大きな農場で研修をさせていただきました。二〇一六年の春から独立し現在二年目の新米農家です。生産している品目は少量多品目での野菜一・五鈴と



丹波栗三十㍿です。

まだまだ手探り状態の栽培でやはり失敗の連続ですが、来年はああしてみようこうしてみようなんて勉強していくのが楽しいです。何より地域の皆様に大事な圃場を無料で貸していただいたり資材を譲っていただいたり野菜を購入していただいたりすると本当にたくさんの方に応援していただいたおかげでここまでやってこられたと感謝しています。



(今後の目標)

野菜の方は、植物性中心の長い目で見た土作りを継続し、天候や害虫に左右されにくい栽培技術を目指します。丹波栗の方は面積を一畝まで拡大し、収穫体験や観光農園などを開園したいと思っています。

### 身体を作る食べ物たち

市島町北奥

秋山 知美

昨年、二〇一八年の始めに神戸市より移住してまいりました。きっかけは四年半前の丹波市豪雨災害でした。約一年半ほど神戸と丹波とを行き来し、市島町でボランティアに従事する中で、自然の素晴らしさや、人々の素朴さに惹かれていきました。また、市島の農産物直売所で出会う農

家さんとお話する中で、安心・安全な食べ物について考える機会を頂き「身体は食べたもので作られている」という、当たり前の様で解っていない大切な事に改めて気づきました。そこから農業に興味を持ちその後も二年余り、神戸での仕事の合間に大路や市島の農家さんへ通い、野菜作りを学ぶという生活を続けました。

ようやく昨年移住が叶い、初めて自分の畑で無農薬・無堆肥の黒豆を作りました。無農薬にこだわったのは、やはり「身体を作る食べ物だから」という理由からです。正直、草がたくさん生えて大変でした。害虫も付きました。しかし「安心・安全で美味しいよ!」と胸を張って言える作物を作りたいと思っています。

現在私は、本業を持ちながら農作物を育てる、半農半Xというスタイルで農に関わっ

ています。仕事は音楽技術者をしています。週に三日程、都会に出て仕事をしています。世間が思う農業の形とは違うのかもしれませんが、どんどん耕作放棄地が増えていく田舎の現状。このようなライフスタイルがあるということをお伝えしています。また、食を作っていく者として、未来を作る子どもたちのことを考え「安心・安全」を提供していきたい。ようこれからも頑張ります。



## 認定農業者との 懇談会を開催しました

平成三十一年二月六日、丹波市認定農業者会総会終了後、丹波市農業委員と丹波市認定農業者との懇談会を開催しました。

農業経営の改善や合理化などに意欲的に取り組まれている認



定農業者の方々から、丹波市の農業の将来ビジョンや農業者が直面している課題、農業振興施策についてのご意見を伺うことを最も基礎的な取り組みと考え、短い時間ではありましたが、ご意見を聞かせていただきました。

### ■主な意見

#### 《手続きの簡素化について》

- ・暗渠排水やかさ上げ、畦畔の整形などの農地改良工事を行う場合、工事内容によって許可や届出の手続きが必要だが、簡素化できないか。

#### 《農業の後継者について》

- ・長期的に後継者を育成し計画的に農業経営を引き継ぐことが必要。
- ・後継者を探している農業者と新規就農を考えている方とをマッチングする場合、農業倉庫が自宅と一体化していると第三者に引き継ぎづらいと感じる。
- ・若い人材を雇用する場合は、

社会保障などのこともあるため、農業経営を法人化することとで安心して就農できるのではないか。

#### 《有害鳥獣害問題について》

- ・イノシシ、シカの被害が電気柵では対応できなくなっている。
- ・カラスの被害も深刻化している。

お聞かせいただきました貴重なご意見は、今後の農業委員会活動及び行政機関への意見書などに活かしていきます。

## 丹波市議会との 懇談会を開催しました

平成三十一年二月八日、丹波市議会民生産建常任委員会との懇談会を開催しました。

懇談会では、農業委員・農地利用最適化推進委員の日頃の活動状況や平成三〇年十月に市長に提出した、「平成三十一年度農業振興施策に対する意見書」

の内容について説明を行いました。

その他、農地転用に伴うトラブルを防ぐため、農地法で制限できない範囲について、市の条例を制定し、対応いただくよう意見を出すなど、有意義な意見交換の場となりました。





# 農地の貸し借りをする際に 手続きを忘れていませんか？



農地の「利用権設定」をお忘れではないですか？

農地の貸し借りをする際に「利用権設定」をしていただくことで、「農地をなかなか返してもらえない」「農業をしていた家族が亡くなり、誰に貸していた（借りていた）か分からない」といったトラブルを防ぎ、安心して農地の貸し借りを行うことができます。

「利用権設定」は農地法の許可は必要ありませんので、簡単にお手続きが可能です。「利用権設定」の詳細については、春日庁舎：農業振興課（0795-74-1465）までお問い合わせください。

その他、農地の売買、かさ上げや暗渠排水の設置などの農地改良工事、また農地を転用・地目変更をする場合は、事前に農地法による手続きが必要です。お忘れなくお手続きいただきますようお願いいたします。

農地のお手続きに関してご不明な点等ありましたら、農業委員会事務局（0795-74-1504）までお問い合わせください。



## 丹波市賃借料情報



平成30年の農地の賃借料をお知らせいたします。

賃借には、賃借料を貸主に支払う賃貸借と、無償で賃借をする使用貸借の2種類があります。

平成30年に農地法第3条及び農業経営基盤強化促進法での利用権設定により締結（告示）された全貸借筆数2,199筆の内、使用貸借は1,643筆（74.7%）、賃貸借は556筆（25.3%）です。

この内、賃貸借556筆の賃借料の平均単価は以下のとおりとなっています。

田（水 稲）6,200 円 /10a

畑（普通畑）7,500 円 /10a（果樹等の特殊な賃貸借は除いています。）

なお上記の賃借料単価は、あくまでも平均単価であるため、地域性や農地の状況、栽培される作物等を考え合わせて、貸手・借手双方により決定してください。



# 農地相談日のお知らせ

農地に関する相談をお受けします

地 域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	会 場
柏原地域	15日(月)	15日(水)	13日(木)	12日(金)	15日(木)	13日(金)	17日(木)	13日(水)	柏原住民センター
氷上地域	12日(金)	14日(火)	12日(水)	11日(木)	14日(水)	12日(木)	16日(水)	12日(火)	氷上住民センター
青垣地域	12日(金)	14日(火)	12日(水)	11日(木)	14日(水)	12日(木)	16日(水)	12日(火)	青垣住民センター
春日地域	15日(月)	15日(水)	13日(木)	12日(金)	15日(木)	13日(金)	17日(木)	13日(水)	春日庁舎(4階・第1委員会室)
山南地域	11日(木)	13日(月)	11日(火)	10日(水)	13日(火)	11日(水)	15日(火)	11日(月)	山南住民センター
市島地域	11日(木)	13日(月)	11日(火)	10日(水)	13日(火)	11日(水)	15日(火)	11日(月)	市島農村環境改善センター

相談時間：午後2:00から午後3:30まで。できるだけ事前に丹波市農業委員会事務局までご連絡ください。

## 農業者年金に加入しませんか

農業者年金は、農業者のための公的年金です。国民年金第1号被保険者で年間60日以上農業に従事する60歳未満の方なら誰でも加入することができます。

### 農業者年金の特徴

- ① 少子高齢化に強い積立方式（確定拠出型）の年金です。
- ② 保険料の額は自由（月額2万円～6万7千円）に決められます。
- ③ 終身年金で、80歳までに亡くなった場合は死亡一時金が遺族に支払われます。
- ④ 保険料の全額が社会保険料控除の対象となります。
- ⑤ 認定農業者など意欲のある担い手には保険料の国庫補助があります。

詳しい内容をお知りになりたい方は丹波市農業委員会事務局までご連絡ください。

## 全国農業新聞を 読んでみませんか

### 農業者の視点でお届けします

- ① 解説に力点をおいた企画編集とニュース報道
- ② 農政・農業・農村の動き、問題をタイムリーに
- ③ 実務情報と経営者マインド
- ④ 読者の心に訴え、ともに生きる
- ⑤ 老若男女が楽しく読める

発行日・・・毎週金曜日

購読料・・・1カ月700円

購読申し込みは丹波市農業委員会へ

### 表紙の説明

たんばルシエは、丹波市産の農林産物をPRし、丹波市の農林業と商工・観光の振興、歴史・文化の融合を図ることを目的に開催されました。今年度はマルシェ形式で4回開催され、農産物・加工品・飲食物の販売や体験イベントが行われ、多くの来場者で賑わいました。